職員による自己評価

A 環境・体制整備

【工夫点】

- ・ 職員の配置数に関しては現状定員数に対して 6,7 割の充足率で運営しているが、児童へのサービスの質を考慮すると妥当である。
- ・ 理学療法士が常駐している為、身体機能面・精神面において専門的な監視下のもと療育が行える。
- ・ 床が全面マットの為、運動をする上で怪我の防止になっている。

【課題点】

- ・ 疾患特異的に、8~10 人の人数は集中力を維持する環境としては難しい。
- ・ 等施設は通所デイサービス後に放課後等デイサービス及び児童発達支援を行っている複合施設であるため、時間的な理由も重なり児童にとって十分な療育環境を準備・提供できていない。
- ・ 個別での支援スペースが確保できていない。

B 業務内容

【工夫点】

- ・ 毎日終礼を行っており、その中で児童の様子を報告したり、改善に向けた討論を濃く行っている。
- ・ 保護者会を実施しており、その中で頂いた保護者の意見を参考に次年度の療育方針等を検討している。

【課題点】

- ・ P D C A サイクルを用いていない。
- ・ 第三者による外部評価は行っていない。

C 適切な支援の提供

【工夫点】

- ・ 保護者へのフィードバックは比較的丁寧に行えている(一人一人に対応している)。
- ・ 5 領域を網羅した療育支援を意識してスタッフ間で共有し遂行できている。
- ・ 活動プログラムは子供たちの運動へのマンネリ化を防ぐ為にカレンダーを用いて月ごとの運動目標とレクリエーション内容を再考し行っている。

【課題点】

- ・ 支援プログラムを作成・公表していない。
- ・ 支援計画書の作成が間に合っておらず、適切な時期に適切な支援を児童・保護者共に行えていない。
- ・ 個別スペースが無く、個別活動が行えていない。
- ・ 複合施設という理由から準備時間がかかる兼ね合いで、スタッフ全員が支援開始前に情報の共有が出来ていない。

D 関係機関

【課題点】

- ・ 関係機関との連携は現時点でほとんど行えていない。
→今後徐々に拡大していく予定。

E 保護者への説明責任・信頼関係

【工夫点】

- ・ 来所中の児童の様子などは保護者と会話をしている中でしっかり時間をかけて共有することが出来ている。

【課題点】

- ・ 支援計画書の作成が間に合っておらず、それらを元にした保護者への説明が不十分となっている。
- ・ 動画や静止画の撮影頻度が少なく、保護者に満遍なく児童の様子などを説明できていない。
- ・ 児童や保護者からの相談を受け入れる体制自体はあるが、それを保護者全員へ説明できておらず、十分に機能しているとは言い難い。

D 非常対応

【工夫点】

- ・ AED の使用方法の講習は受けている(年 1 回)。
- ・ ヒヤリハットや虐待については毎日終礼時に徹底して確認し共有することが出来ている。

【課題点】

- ・ 避難誘導の確認・練習は行っていない。
- ・ 各マニュアルはあるがスタッフ間で周知・共有が出来ていない。

保護者による評価

A 環境・体制整備

- ・広くはないスペースだが工夫して取り組んでいる。
- ・異動・退職者が多い。
- ・出入口やロッカーの間に境界がなく、生活の練習をする際に分かりづらい。
- ・人数に対してしっかりと見れている。
- ・清潔に保たれている。

B 適切な支援の提供

- ・専門性のある先生とそうでない先生がいる。
- ・子どもの特性について分からず、キツイ口調で話す方がいる。
- ・子どもが何の目的でどの様なことをしているのか全く分からない。
- ・子どもには個人差があると思うので、不足やレベルが高すぎの回もある。
- ・ほかの子どもとの活動・交流はない。

C 保護者への説明等

- ・保護者会にて説明をうけた。
- ・定期的に計画の目標が達成されているのか知りたいです。
- ・面談や子育て支援などは特別なない。
- ・毎回、日ごろの子どもの状況等色々聞けてありがたい。
- ・兄弟向けのイベントや父母参加型の交流の機会などの支援はない。してほしい。
- ・子どもに対しての意思の疎通は全ての職員が出来ているとは思わない。
- ・施設内での活動の様子などは LINE を通じて非定期的に行っているため定期的に行ってほしい。

D 非常対応

- ・やっているのか知らされていないため分からない(多数票)。

E 満足度

- ・スタッフの皆さんに会うのをいつも楽しみにしています。
- ・新しいスタッフや友達の入れ替わりで環境の変化があると不安になる。
- ・とても楽しく出来れば毎日通いたいと言っています。
- ・家の近くまで送迎してほしい。
- ・子どもの体調面も考えてくださり、安心して通わせることができます。
- ・異動者が多いこと以外は満足。

事業所内での分析

【共通点】

- ・当日参加の児童に対し、スタッフの数は手厚くサポートが出来ている。
- ・児童の利用風景や様子などは保護者と直接お話をすることで伝えることが出来ている。
- ・支援計画書の説明および内容に沿った支援が行えているのかわからない。
- ・非常時(避難誘導等)の確認や説明を保護者に十分に伝えることが出来ていない。

【相違点】

- ・理学療法士や児童指導員など専門性のあるスタッフがいる反面、児童の特性について知識がないスタッフもいるため心配。
- ・集団での運動は児童間での体力、筋力の差がある為、個々の児童に適した支援が出来ているか不安。
- ・異動するスタッフがいると児童が不安になる為、出来るだけ少なくしてほしい。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・参加児童数に対して十分なスタッフの配置数を置き、支援の質を担保することが出来ている。
- ・理学療法士を常駐し専門的知識のもと指導を行う環境が整っている。
- ・5領域の支援を満遍なく行えるよう、集団支援の内容を工夫している。
- ・感覚統合療育のための室内遊具が多くある。
- ・来所中の児童の様子などは保護者と会話をしている中でしっかり時間をかけて共有することが出来ている。

事業所の改善点

- ・支援計画書の説明および内容に沿った支援が行えているのかを保護者にしっかりと伝えられていない。
- ・集団での運動のみでは個々の児童の能力を育むことが難しい。
- ・非常時(避難誘導等)についての周知が十分ではない。
- ・スタッフの平均した療育についての知識の向上が必要。
- ・LINEなどを通じて児童の運動の様子などを定期的に保護者へ共有することが出来ていない。

事業所の改善への取り組み

- ・支援計画書の説明を行う際に十分な時間を確保し、保護者一人一人としっかり話し合う場を作る。
- ・個別支援の時間を新たに追加し、個々の児童の能力に合わせた運動の支援を行っていく。
- ・非常時(避難・リスク管理・虐待防止等)のマニュアルを作成し、保護者への周知を徹底する。
- ・定期的にスタッフ間で勉強会を行い、療育に対する知識の向上を図る。
- ・定期的に各児童の心身機能の変化などを保護者に説明する機会を設け、その際に実際の運動風景などを動画または見学して頂き共有していく。